

**対馬暖流の流量は例年よりもかなり少なめで、
岸よりを通過する流路となっています。
100m以浅の水温は、全体的に例年よりもかなり低めとなっています。**

2019年2月に稚内水産試験場「北洋丸」で実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

瀬棚～石狩沖での対馬暖流の北上流量は0.5Sv（1Sv=10⁶m³/s）程度と例年よりもかなり少なめで、流路は岸寄りです（図1c）。暖流の流量が少ないため、100m深水温は全体的に例年よりも低めとなっています。

表層水温は、暖流の流量低下と2月上旬の強い寒気の影響により、全体的にかなり低い水温となっています（図1a、b）。余市前浜水温も同様に、昨年10～11月は「かなり高い」水温でしたが、12月以降に徐々に低下し、2月中旬には「非常に低い」水温となっています。

現時点での日本海は沖合も沿岸も含めて、100m以浅では水温が例年よりもかなり低めとなっています。これらの状況（暖流の流量が少なめ、年明け以降に気温の急激な低下による水温低下）は一昨年（2017年）の状況とよく似ています。暖流の流量が少ないことから、沿岸・表層水温は気温の影響を受けやすくなっていると考えられます。今後の気温の変化にご注意ください。

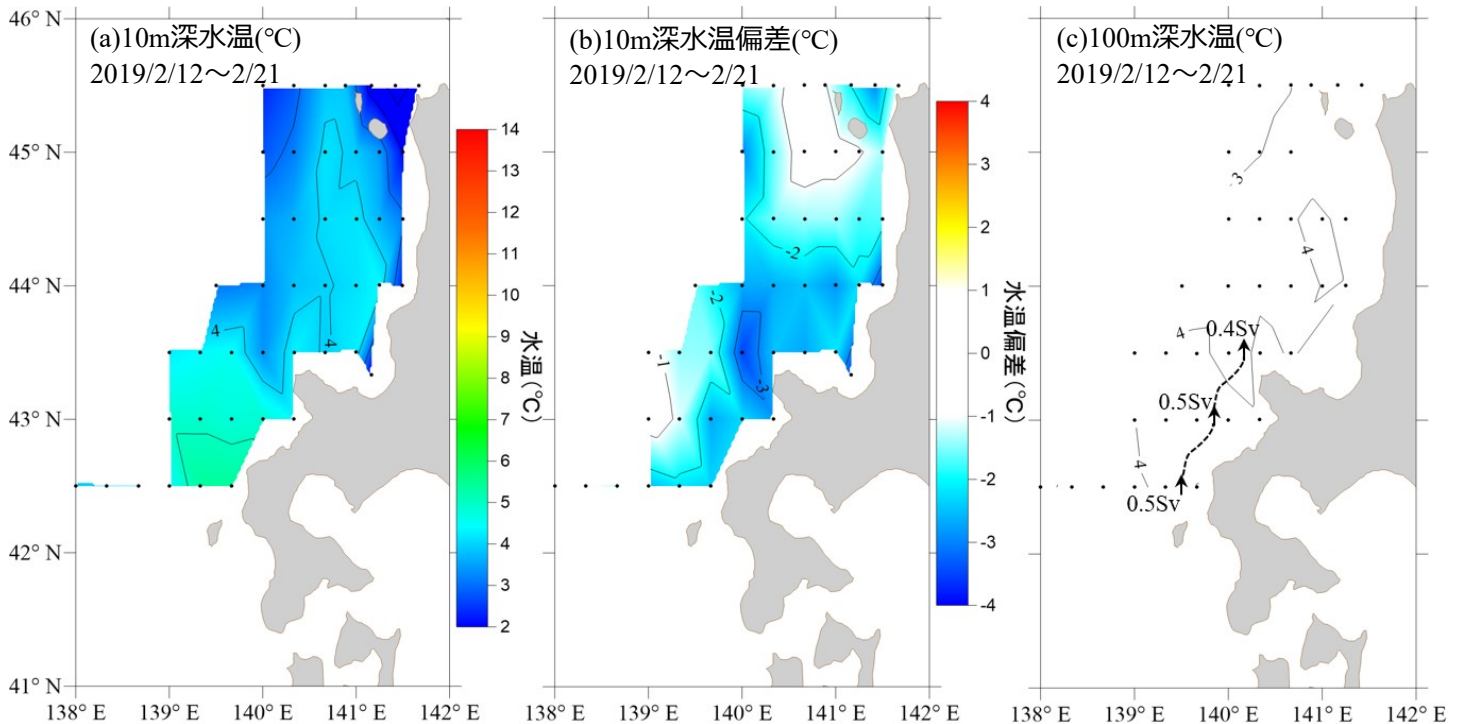


図1 2019年2月における (a) 10m層水温、(b) 10m層水温偏差（20年平均値（1989～2008年）からの差）の分布、(c) 100m層水温分布と対馬暖流の流路（500db基準の地衡流より）（1Sv=10⁶m³/s）

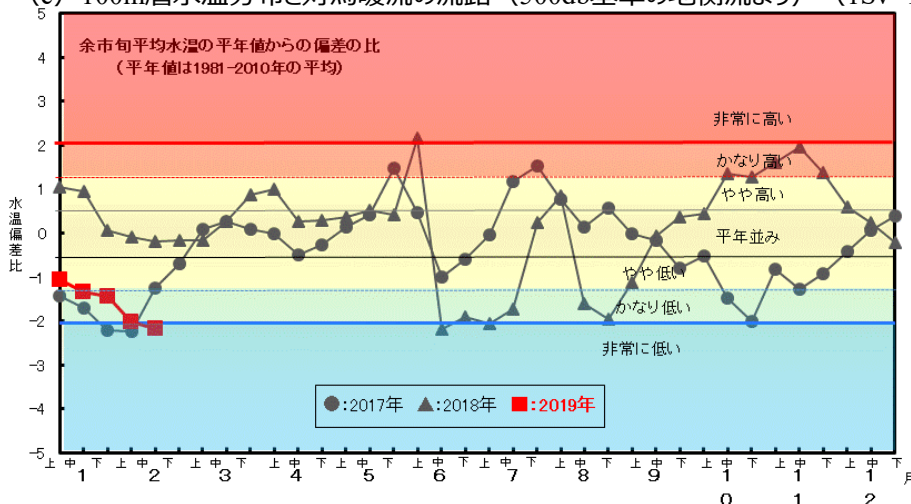


図2 余市前浜旬別水温の年平均偏差比

最新版は

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/suion/index.html>

もしくは「余市前浜水温」で検索